

第2回福知山数理・データサイエンス研究会 実施報告

福知山公立大学 数理・データサイエンスセンター 成松明廣

概要

2024年9月8日および9日、市民交流プラザふくちやま3階にて、「第2回福知山数理・データサイエンス研究会」を実施した。本稿では、その報告を行う。

「福知山数理・データサイエンス研究会」は、データサイエンスに関連する様々な分野を横断した研究交流を行うほか、学生の研究発表の場となる会として、2023年度に第1回が開催された。第2回は引き続き様々な分野を専門とする外部研究者および本学の教員・学生が、昨年度を大きく上回る人数で参加し、活発な議論が行われた。

研究会内容

第2回となった今回の研究会では、テーマを厳密には設定せず、広くデータサイエンスやその数理に関連する様々な分野の研究者の方々をお招きし、学内においても様々な専門の教員およびその研究室に所属する学生に呼び掛け、多くの参加者に恵まれた。

特別講演については、西野順二先生（玉川大学情報通信工学科）、井手勇介先生（日本大学文理学部）、馬強先生（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科）の3名の研究者によって行われた。それぞれゲーム情報学/ファジィ理論、確率論/量子ウォーク、ウェブ情報学/情報栄養学など、講演者の研究内容を学生にわかりやすい形でご講演いただいた。専門分野の近い教員、学生にとって興味深い内容であったほか、専門外の人にとっても研究の幅を広げる大変有意義な機会となった。

ポスターセッションでは、本学学生10件、それ以外3件（うち外部研究者2件）の計13件が行われた。昨年度より学生発表が1件増加しただけでなく、大学院生の参加があったことも関連して内容の質は全体的に向上した。優秀発表賞を受賞した吉川稜さんらによる発表「造血幹細胞とがん細胞の数理モデル」も、ポスターの完成度などのプレゼン力以上に、題材と結果の興味深さに対する評価が高かったことが受賞の要因となった。前年度はポスターセッションを1時間として時間が不足したため、今回は2時間としたが、それでもやや短く感じた参加者が多くなるほどの盛況であった。

講演タイトル等は、[開催報告ページ](#)参照。

課題点

開催時期について、参加者は昨年度より増加したものの、一人暮らしの学生が多い本学では、帰省中のタイミングと重なるため参加をあきらめたケースがあった。周知を早める、開催時期を秋学期直前にずらす、などの方針が考えられる。